

創作系美大院生が  
**研究計画書を書くために - 1**  
～ 基本的「手続き」- 仮説検証型にしたがって ～

女子美術大学大学院美術研究科  
非常勤講師: 石井拓洋

2020-6-10  
大学院講義 前期第5回

## 1-1 研究計画には一定の「手続き」がある

- 研究では、定められた論理展開の「手続き」が必須
  - 再現性の確保のため
  - 「確からしさ」(蓋然性, probability) の確保のため
  - 特に修士課程の段階としては研究の訓練のため

※ ほとんどの場合、制作もまた、定められた「手続き」を無意識に踏襲しているのだが、、、
- 「手続き」(procedure) :
  - 物事を行なうための、順序、方法、手順などの形式的作法
  - 「形式」( form) ⇔ 「内容」( content )

## 1-2 研究の区分・分類

- 様々な分類や表現が可能 (視点、各研究分野での慣例にて)。
  - 基礎研究—応用研究—開発研究
  - 実証研究—理論研究
  - 文献研究—参与観察研究, アクションリサーチ                      etc、、、
  - 研究の分類は困難
  - 上の「●●研究」のそれぞれに細かなる「手続き」が存在する。しかし、、
- 各研究を網羅する、大まかなる基本的「手続き」がある。
  - 「仮説検証型」と「仮説生成型」の手続き

## 1-3 今日の基本的「手続き」の2つ

- 仮説検証型 ( hypothesis proving )
  - 〈はじめに仮説を立てて〉、その仮説の確かさを実証する。
  - 最も代表的な、古典的研究「手続き」
  
- 仮説生成型 ( hypothesis making )
  - 〈はじめに虚心坦懐に事象をみた後で〉、意義ある仮説を生み出す。
  - 「仮説検証型」の問題点に対する批判から生まれた現代的な「手続き」

「虚心坦懐」きょしんたんかい :

心に何のわだかまりもなく、さっぱりして平な心。

また、そうした心で物事に臨むさま ( 参考: 広辞苑) 。 ※「素の心で」

## 2-1 研究計画書を書く意義

- なぜ研究計画書を書くのか？
  - a 自分において、研究能力を磨くため。
    - その活動を「研究」の水準へと至らせしめるために
    - 研究対象を適切に探究しているかどうか、自身で批判的に検討するために
  - b 他者において、研究に興味をもってもらうため
    - この研究には意義があり、方法が適切であることを納得してもらう必要がある
- 〈研究計画書〉と〈研究論文の序章〉
  - 両者の書くべき内容は同じ
  - 両者とも、研究上の「手続き」に従って書く
  - 適切に研究計画書が書けないと、研究論文の序章は書けない

## 2-2 本日の話の参考文献

- 以下の資料をもとに、適宜、美大の文脈に合うよう補筆・修正した

酒井聡樹『これから学会発表する若者のために：  
ポスターと口頭のプレゼン技術』共立出版、2008年。

- なぜこの資料か？
  - 冗談めいた例が親しみやすく解りやすい（ベガルタ仙台というサッカーチームの例）
  - 研究で「何をやるか」を最初に決めるとの計画方法が、美大院創作系の実状と合致
    - 参照「第2部 第2章 序論で説明すべきこと、2.4 説得力のある序論にするコツ」 c.f. p.35
    - 「何をやるか」 = 研究上の問いを解決するために「具体的にやったこと」
    - 美大院創作系での研究は、悲しいかな、「何をやるか」は「作品をつくること」として決まってしまう。

## 2-3 研究計画書の骨子（仮説検証型）

- 研究の意義、方法の適切さを示すために書くべき6つとその順序
  - 仮説検証型の「手続き」をふまえたもの（研究の基本型の代表例）
    - 1：「世の事実とその問題点」（「研究の背景」）
    - 2：「1を前にして、どのような問いを明らかにするか？」（※研究上の問い）
    - 3：「それが明らかになるとなぜ良いか？」（「研究の意義」）
    - 4：「過去の人が2を明らかにした事例と問題点」（「先行研究の検討」）
    - 5：「問いを明らかにするヒントは？」（文系ではこれが「研究方法」、仮説提示も含む）
    - 6：「5をふまえつつ、2をどのような方法で明らかにするか？」  
（「研究目的」）  
（= 美大院では「●●な作品をつくって仮説を検証する」となる）

## 酒井本での例示 c.f. 29 ( 本講義の文脈にあわせるため、ここでは適宜修正した)

1: 「世の事実とその問題点」 ( 「研究の背景」 )

→ 「ベガルタ仙台(サッカーチーム)は走りが強い。他チームと比較してもダントツだ。」

2: 「1を前にして、どのような問いを明らかにするか？」 ( ※研究上の問い。5W1Hの活用 )

→ 「ベガルタ仙台の走りが強いのは、〈何が原因か?〉」

3: 「それが明らかになるとなぜ良いか？」 ( 「研究の意義」 )

→ 「原因を応用して、いずれ、継続的勝利へと導くことも可能かも」

4: 「過去の人が2を明らかにした事例と問題点」 ( 酒井本にはないが、「先行研究」 )

→ 「A氏は原因が監督の指導法Bにあるという。でも指導法B廃止以降も走力変化なし」

5: 「問いを明らかにするためのヒントは？」 ( 「研究方法」と仮説の提示 )

→ 「牛タンがヒントかも。なぜなら、実際、選手はそれをよく食べているし、栄養がある。」

6: 「5をふまえつつ、2をどのような方法で明らかにするか？」 ( 「研究目的」 )

→ 「2019年度のベタルタの活動を対象とし、栄養学的観点から、〈牛タン仮説〉を検証する」

## 2-4 研究計画書に書くべき項目と順序。その実際。（仮説検証型）

1. 「研究の背景」 : 世の事実とその問題点を書く。特に出典の注釈が必要な部分。
2. 「研究上の問い」 : あらためて、簡潔に「問い」を言語化する（5W1Hの活用）。  
研究の背景に含める例もあるが、修士では独立項目で書く方がよい。
3. 「先行研究の批判的検討」 : 同じ種類の問いに取り組んだ先達の例と、その不足点。要注釈。
4. 「研究方法」 : 芸術文化研究では「研究で用いる視点」を書く部分と考えていい。  
先達の不足点を補うため、ここであらたな「研究的視点」の提示を行う。  
文系研究では、どのような視点をつかうか？ が研究の質を決める。  
だから普段から「視点」を探すために学びつづける必要がある。  
仮説検証型ならここで「問い」に対する仮説も提示する。
5. 「研究目的」 : 「問い」明らかにするために、何を対象に、どんな「研究的視点」で、何をするか。  
（仮説検証型なら、仮説を明らかにする）。
6. 「研究の意義」 : 予想される成果が、その後社会に及ぼす好影響を予想する。

以上